



Press Information

VPR13-097

2013年11月23日(土)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

新型「ゴルフ」が2013-2014日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞 — 日本カー・オブ・ザ・イヤー34年の歴史において輸入車として初の受賞 —

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(代表取締役社長:庄司 茂、本社:愛知県豊橋市、略称:VGJ)が輸入販売する新型「ゴルフ」が、第34回日本カー・オブ・ザ・イヤー(日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催)において、2013-2014 日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。1980年に始まった日本カー・オブ・ザ・イヤーの歴史の中で、輸入車が大賞を受賞するのは初めての快挙となります。

今回の受賞理由は「MQB」というモジュールによる新たな開発手法を採用し、正確なハンドリングと上質な乗り心地を両立した見事なシャシーを実現。さらに環境性能と安全性能を高めた数々の新技術の採用により、セグメントのベンチマークとしてのポジションを確固たるものにした。また、クルマが本来持つべき運転する楽しさをいつでも味わうことができ、街乗りからロングドライブまで誰もが満足できる。さらに日本市場において手頃な価格を実現したことも高評価。いま日本のユーザーにいちばん乗って欲しいクルマと言える。」と評価されての受賞となりました。輸入車としては過去最高の504ポイント(2位との差は131ポイント)を獲得したことが、その評価の高さを物語っています。

本日の受賞セレモニーで、社長の庄司は、「ゴルフが34年に及ぶ日本カー・オブ・ザ・イヤーの歴史において、輸入車として初の受賞出来たことを大変うれしく思っています。60年にわたり支えて頂いた日本のフォルクスワーゲン関係者や、ファンの方々に与えられたものだと思えます。」と述べました。

新型「ゴルフ」は、今年6月に日本で発売され、クリーンでシャープなデザインや、先進の安全装備類、内外装の質感などが高く評価されています。高い動力性能と低燃費を両立した1.4TSI ACT(気筒休止)エンジンを採用するゴルフTSIハイラインや、ミリ波レーダーを採用し、高度な運転支援機能であるアダプティブクルーズコントロール(ACC)を標準装備するTSIコンフォートライン、21.0km/Lと過去最高の低燃費を実現した1.2TSIエンジンや衝突被害軽減ブレーキ"Front Assist Plus"を採用しながら249万円という高いバリューを実現したTSIトレンドラインをラインアップします。また10月には350Nmという歴代最高のトルクを発揮する2.0TSIエンジンを採用した「ゴルフ GTI」も追加され、発売以来5カ月の受注台数は、13,000台に達し、7世代に及ぶゴルフの歴史において過去最高の販売ペースを維持しています。

ゴルフは、今年度の欧州カー・オブ・ザ・イヤーやワールド・カー・オブ・ザ・イヤー、ゴールデンステアリング賞も受賞しており、日本カー・オブ・ザ・イヤーの受賞により、世界中の主要なカー・オブ・ザ・イヤーでその高い商品力が認められたこととなります。

日本カー・オブ・ザ・イヤー公式サイトはこちら。<http://www.icoty.org/>

TSIはフォルクスワーゲン グループの登録商標です。